

《 やればできる② 》

誘惑に負けず勉強できる環境を！



◇「メモをする習慣がある」

忘れ物をしないためには、具体的に「～するのを忘れない」と意識することです。しかし、それだけでは忘れてしまうこともあるので、メモをする必要性が出てきます。メモの役割は、大切なことを書いて、後で振り返ることです。勉強ができる子は、公式など重要なことを書いたり、しなければいけないことを書いたりして活用します。メモは忘れ物防止だけでなく、理解を促すことになるため、成績アップにつながります。



◇「後回しにせず、すぐやる」

「しなければいけないこと」や「嫌なこと」を、むしろ積極的にやるのもできる人の習慣です。その典型例がプリント類の管理です。できる子ほど、プリントなどをすぐにクリアファイルやフラットファイルに整理します。後でどこにいったのかわからなくならないために、「すぐやる」ことはとても重要です。その場でできることは、その場ですぐやらせるのがポイントです。

◇「期日を設定、逆算し少しずつやる」

少しずつやるというと、「こつこつやる」といった真面目な性格が影響しているように感じますが、それだけではありません。大切なことは、期日を設定して、逆算して勉強することです。例えば、2週間後に問題集20ページをやって提出という宿題であれば、「 $20 \text{ ページ} \div 14 \text{ 日} = 1.43$ 」で、1日に1ページ半ずつやれば期日までに終わることがわかります。少しずつできる子は、このように無理のない分量で、それでいて期日までに終わるペースを逆算して取りかかります。

◇「勉強ができるように工夫する、環境をつくる」

勉強をしようと思っても、つい遊んでしまったりお昼まで寝過ごしてしまったりすることがあると思います。確かに勉強の邪魔になる誘惑は少なくないので、その誘惑に負けてしまう「意志の弱さ」は問題です。しかし、「意志の弱さ」は簡単には克服できません。できる子は、むしろ自分の「意志の弱さ」を素直に認めて、誘惑に負けないような工夫をしています。例えば、勉強に集中できない場合、図書館や塾の自習室を活用するといった工夫が挙げられます。すなわち、勉強できる環境をつくる工夫です。

「勉強法以前の『勉強体質』のつくりかた」(伊藤敏雄)

《 勉強ができない子 》

- 忘れ物(宿題)が多い・・・忘れ物が多いと、勉強できる環境を作ることができません。
- 嫌なことを先送りにする・・・「勉強ができる」「できない」以前の問題です。
- 「時間がない」が口癖で計画性がない・・・一日の時間の使い方を見直してみましょう。
- 休日は寝ていたい、生活習慣が乱れている・・・一番の原因は「意志の弱さ」です。